



CODE

Letter

2002.10.17 VOL.1

CODE(海外災害援助市民センター)発行
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL : 078-578-7744 FAX : 078-576-3693
e-mail info@code-jp.ne.jp URL <http://www.code-jp.org/>
郵便振替 : 00930-0-330579

CODE10ヶ月を振り返って

代表 芹田健太郎

この10ヶ月で、代表としてイニシャチヴをとって実行したことが一つあります。それは、組織としてのCODEの運営委員会を毎月の17日に開催することでした。私どもの原点は言うまでもなく1995年1月17日にあります。

人びとはすでに、あの大地震が1995年に起きたことさえ忘れかけています。95年を覚えていても寒いときでしたが、はていつでしたか?となる。あれは1月であった。しかし、なかなか17日までは覚えていない。私たちは6,400余名を失った。まちは瓦礫と化した。戦争でもテロでもなかったが、人々の営みも、ひとりひとりの重みも変わらない。私たちは互いに助け合った。最後の一人まで助け出そうとした。多くの人々が駆けつけ、手を差し伸べてくれた。またあの17日は祈りの起点でもあった。

17日はこの原点をしっかりと胸に刻んでおくために選ばれたのです。

私どもはCODEをとりあえず立ち上げました。いまだに建設途上です。もちろん、CODEは永遠に成長し続けるものです。地域的な繋がりを広げつつ成長するし、世代的な繋がりを確保しつつ未来へ向けて広がっていくものです。その意味では、だから、いつでも建設途上です。しかし、とりあえず本年の1月17日に立ち上げたので、いろいろな面で文字通り、建設途上です。

なぜそうまでして急がなければならなかったのか。その理由を問い、この10ヶ月を振り返ってみると、どうなるのでしょうか。

私どもの経験から、いつでも、どこかで、わたしを見ていてくれる人がいるというのは、私どもの安心でした。だから、私たちはあなたたちを見ていますよ、いつでもそばにいけますよ、というメッセージを発し続けることが重要であり、それには目に見える組織が必要だったのです。

これまで、私たちは、世界のどこかで震災が発生する度に、緩やかなネットワークを立ち上げてきました。しかし、私たちのネットワークも広がり限界を見せてきていましたし、このままでは、私たちはいつでもいますよ、と常に目に見える形で示すことが難しいと思いました。これが拙速を選んだ理由でした。

さて、この10ヶ月、私どもは核として集まってきました。セミナーを開きました。アフガンのこともはじめました。国連人道問題調整事務所(OCHA)の英語による災害情報の一部を日本語で発信してきました。ここにいるよ、と存在を見せてきました。多少は効果は出てきているのでしょうか。

何より、しかし、ひとりひとりがCODEの名で語り始めたことが大きいことだと言っていいでしょう。私たちは、CODEつまり海外災害に対応する市民たち(Citizens towards Overseas Disaster Emergency)です。常に人びとに温かい目を注ぐ市民であり続けたいものです。組織としては、異なる世代をつなぎ、異なる地域をつなぐ核としての発足でした。大きくなりましょう。



イラン地震救援プロジェクト

6月22日午前7時30分（日本時間同日正午）頃イラン北西部カズピン州、ハマダン州周辺地域でM6.3の地震が発生しました。CODEでは、6月26日付でイラン地震救援プロジェクトを発足し、募金活動を展開してきました。地震発生直後より、関係各機関より情報収集を行い、同時に「リフォームシステム21」（本部：神戸/建築家のネットワーク）へ情報提供を行ってきました。

「リフォームシステム21」は、7月8日～7月14日まで3名の現地派遣を行い、そこで現地カウンターパートであるIIEES（国際地震工学・地震学研究所）と協議の結果、被災地であるチャングレー村へ学校建設を行うことを決定いたしました。8月28日に神戸港より建築資材、工具などがイランへ向け出発し、現在第2次派遣を行い、10月中に学校建設を終了する予定です。

CODEでは、集まった募金79,618円（8口）を9月18日付で「リフォームシステム21」へ後方支援として寄付いたしました。みなさま、あたたかいご支援、本当にありがとうございました。

イラン北西部カズピン州、ハマダン州周辺地域

発生日時：6月22日午前7時30分（日本時間同日正午）

地震の規模：マグニチュード6.3

死者：227人

負傷者：1,300人

被害者数：110,000人

アフガン救援プロジェクト

アフガニスタン救援に向けて2002年7月17日CODEアフガニスタン救援プロジェクトチーム（プロジェクトリーダー：室崎益輝）が発足されました。CODEでは、アフガニスタンで活動する各国NGOの情報を収集するとともに、「アフガニスタン救援委員会（加盟団体：24団体）」からの「ぶどう畑再生プロジェクト」および「子どもの教育支援」、農業再生事業としての「植樹プロジェクト」「障害者支援（調整中）」などの提案を受け、今後の方向性の議論が行われています。「アフガニスタン救援委員会」より10月下旬からスタッフが再度現地入りしますので、帰国後再度プロジェクト会議を開き、アフガニスタン救援委員会スタッフからの報告を踏まえ具体的なCODEとしての支援が決定されます。決定されました内容につきましては次回のニュースでお知らせいたします。

アフガニスタン現地報告会のお知らせ

日時：11月18日（月）16:00～18:00

報告者：村井雅清さん（アフガニスタン救援委員会）

場所：神戸YMCA

参加費：500円

会場の都合上、事務局まで事前お申し込みをお願いいたします。

これまでの活動記録

2002.1.17	CODE発足
1.29	CODE発足式
1.29～3.12	Kick off 連続セミナー(全6回)
2.17	運営委員会
3.17	運営委員会
4.17	運営委員会
5.10	人と防災未来センター専任研究員との交流 第1回ふ～ど・ばざ～る「インド編」
5.17	運営委員会
6.15	第2回ふ～ど・ばざ～る「朝鮮編」
6.17	運営委員会
6.22	イラン地震発生
6.26	神戸市長田区の「リフォーム21」より救援 活動の申し入れ、プロジェクト開始
6.29～8.25	連続セミナー「NGOことはじめ」(全5回)
7.17	運営委員会 アフガンプロジェクト開始(座長:室崎益輝副 代表)
8.6	第3回ふ～ど・ばざ～る「台湾・中国編」
9.17	運営委員会

ありがとうございます。会員・寄付者ご芳名
(以下順不同・敬称略)

一般寄付<2002年1～9月末日>

神戸YMCA

イラン地震救援プロジェクト支援<2002年6～9月末日>

井上由紀子,市原忠土,渡辺,和田龍太郎,清水正博,高倉台校区防
災福祉コミュニティ(以上兵庫県),白石孝司(愛媛県)

2002年1～9月末日までの新規会員

- ・正会員：芹田健太郎,室崎益輝,山口徹,黒田裕子,島田誠,西正
興,野崎隆一,藤野達也,松本誠,村井雅清,村上忠孝,
吉 富志津代,ラジブ・ショウ,橋口文博,牧田稔(以上兵
庫 県),榎木恵子(大阪府),コープこうべ(兵庫県)
- ・賛助会員：合田且一朗(京都府),上条紘昭(長野県),内田欽三(愛知
県),権守光子(山梨県),大橋洋子(大阪府),粕谷秀規,田
中一行(以上東京都),曹,李紫君,杉田文夫(以上兵庫県)
- ・登録会員：古川詠子(兵庫県)

編集・発行 CODE(海外災害援助市民センター)

〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10

TEL: 078-574-7744 FAX: 078-576-3693

e-mail info@code-jp.ne.jp URL <http://www.code-jp.org/>

郵便振替: 0 0 9 3 0 - 0 - 3 3 0 5 7 9

編集後記

やっと皆様にこの間の活動をご報告することができました。今後の活動予定は、別紙をご参照下さい。今後もよろしく願いいたします。11月の運営委員会は18日18時30分からです。(事務局)